# 蚊（ヤブカ）に御注意！

熱帯や亜熱帯の国々で、ヒトスジシマカやネッタイシマカが媒介する感染症の流行が続いています。
ブラジルでは小頭症の新生児が増えており、ジカウイルスの感染が関連しているのではないかと考えられています。
また、2014年夏、我が国で70年ぶりにデング熱が流行しました。
これらの感染症を予防するためには、ヤブカの発生を抑えるとともに、ヤブカに刺されないようにすることが大切です。

ジカウイルス感染症・デング熱の性状（2017年3月31日現在）

| | ジカウイルス感染症 | デング熱 |
|---|---|---|
| 症状 | ✓ 軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感など。<br>✓ 潜伏期間は2～12日（多くは2～7日）<br>✓ 80%は感染しても症状が出ない。<br>✓ 妊婦が感染すると胎児に感染することがあり、小頭症などの先天性障害を起こす可能性がある。 | ✓ 突然の発熱、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛、発疹など。<br>✓ 潜伏期間は2～14日（多くは3～7日）<br>✓ 感染しても発症しないことも多くみられる。<br>✓ ごくまれに重症化し、出血症状となり、適切な治療がなされないと、致死的な病態になる。 |
| 流行地 | ✓ アフリカ、中南米、アジア太平洋地域<br>✓ 特に、近年は中南米で流行が拡大 | ✓ 熱帯や亜熱帯の全域 |
| 媒介蚊 | ネッタイシマカ（国内に生息しない）・ヒトスジシマカ（国内に生息） | |
| 国内発生 | ✓ 海外の流行地で感染し、国内で発症した患者は16名<br>✓ 日本国内で感染した患者なし | ✓ 海外の流行地で感染し、国内で発症した患者は毎年200名前後<br>✓ 2014年、東京都立代々木公園に関連する患者162名の報告 |
| 治療薬 | 特有の治療薬はなく、対症療法（予後は比較的良好） | |
| ワクチン | 開発されていない | |

## どのようにして感染するのですか？

デング熱とジカウイルス感染症いずれも、ウイルスに感染した人の血を吸ったヤブカ（ヒトスジシマカやネッタイシマカ）が体内でウイルスを増やし、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。

## どのように予防すればよいですか？

ヤブカは日中活動し、ヤブや木陰などでよく刺されます。その時間帯に屋外で活動する場合には、できるだけ肌の露出を少なくし、虫よけ剤を使用します。

日中屋外で活動する時は・・・

できるだけ肌の露出を少なくしましょう！
（長袖、長ズボンがよい）

虫よけ剤を活用しましょう！

虫よけ剤は時間が経過した場合や、発汗、雨等で濡れた場合は効果が低下します。効果が薄れたら使用上の注意に従って再使用します。

## 国内でジカウイルスに感染することはありますか？

ウイルスを媒介する蚊の一つヒトスジシマカは、日本のほとんどの地域に生息しており、岐阜県内においても、すべての地域で生息を確認しています。

国内でジカウイルスに感染した報告はありませんが、流行地でウイルスに感染した人（日本人帰国者や外国人旅行者）が国内でヒトスジシマカに刺され、そのヒトスジシマカが他の人の血を吸えば、感染する可能性はあります。

## 流行地で蚊に刺されたらどうすればよいですか？

すべての蚊がウイルスを保有している訳ではないので、蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありません。

心配な方や発熱等の症状のある方は、帰国された際に、検疫所でご相談ください。また、帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所にご相談ください。

### 性行為による感染について

ジカウイルス感染症は、性行為により感染するリスクが指摘されています。

流行地に滞在中は、症状の有無に関わらず、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を自粛することが推奨されます。また、流行地から帰国した男女は、症状の有無に関わらず、少なくとも6か月（パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中）は性行為の際にコンドームを使用するか、性行為を控えることが推奨されます。

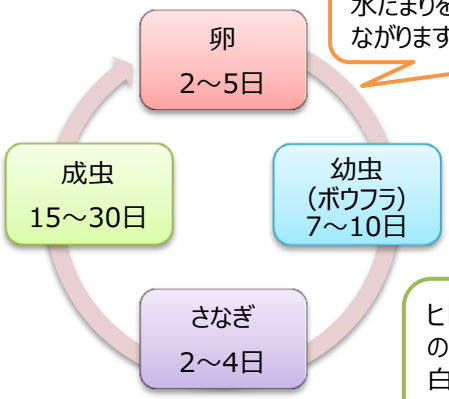
### 妊婦と妊娠の可能性がある女性へ

妊婦や妊娠の可能性のある方は、ジカウイルス感染症の流行地への渡航を控えたほうがよいとされています。

## 身のまわりの蚊を減らそう！

ヒトスジシマカは、空き缶に溜まった雨水など、小さな水たまりを好んで卵を産み付けます。ヒトスジシマカの発生源となる水たまりを無くすことで、蚊の数を減らすことができます。

**蚊の一生**




卵のふ化、ボウフラの生息には水が必要です。水たまりを無くすことが、蚊の発生防止につながります。

ヒトスジシマカの行動範囲は発生源のごく近くに限られます。
白黒模様の蚊を見かけたら周辺に発生源がないかチェックしてみましょう！

**◆ ヒトスジシマカ ◆**

5月中旬から10月下旬頃まで活動します。公園、庭先、墓地などで、特に昼間に活発に吸血します。秋になり気温が下がると成虫は死んでしまいますが、卵の状態で冬を越します。
背中に1本の白い線があり、脚の先端の方が黒と白の縞々になっているのが特徴です。

写真：国立感染症研究所 衛生昆虫写真館より

### こんなものはありませんか？

雨ざらしのバケツ、じょうろ

屋外に放置された空きビン、缶、ペットボトル

**Point**

ちょっとした水たまりがヒトスジシマカの発生源になります。

- 不要な水たまりは無くしましょう。
- 無くせない水たまりは、最低週に1回は清掃、水の交換をしましょう。

古タイヤに溜まった水たまり

植木鉢の受け皿

マンホールの蓋のくぼみ

雨水マス